

仲間と歩く早春の野山

「大和」コース 茨城県 No.113

JOA 公認 No.577

二宮尊徳コース 8.0km 12 ポスト

羽田山コース 3.0km 5 ポスト

昭和の記憶とともに

茨城県大和コースに25年ぶりに再訪しました。初めての挑戦は昭和62年3月28日のこと。コース内を縦断していた筑波鉄道の営業が3日後の3月31日限りで終了するというタイミングでした。JR水戸線との乗換駅である岩瀬駅に降り立つと、最後の姿を見ておこうという多くの人たちが集まり大変な賑わいでした。「さよなら」のプレートをつけた車両がホームで待つ姿をみんなが写真に収めていました。わずかに1駅目の雨引駅で下車したのは私ひとりだけ。ここから旧大和村役場まで15分かけて歩く道すがら、どこから聞こえてきたのか、当時流行っていた小比類巻かほるの「Hold On Me」が大音量で流れていたのを覚えています。

平成の茨城大和コース事情

時は流れ、この四半世紀のうちに大和村は隣接する岩瀬町、真壁町と合併して平成5年に桜川市となり、さらに平成7年にはオリエンテーリングコースも一新されて、3コースが楽しめるようになっています。

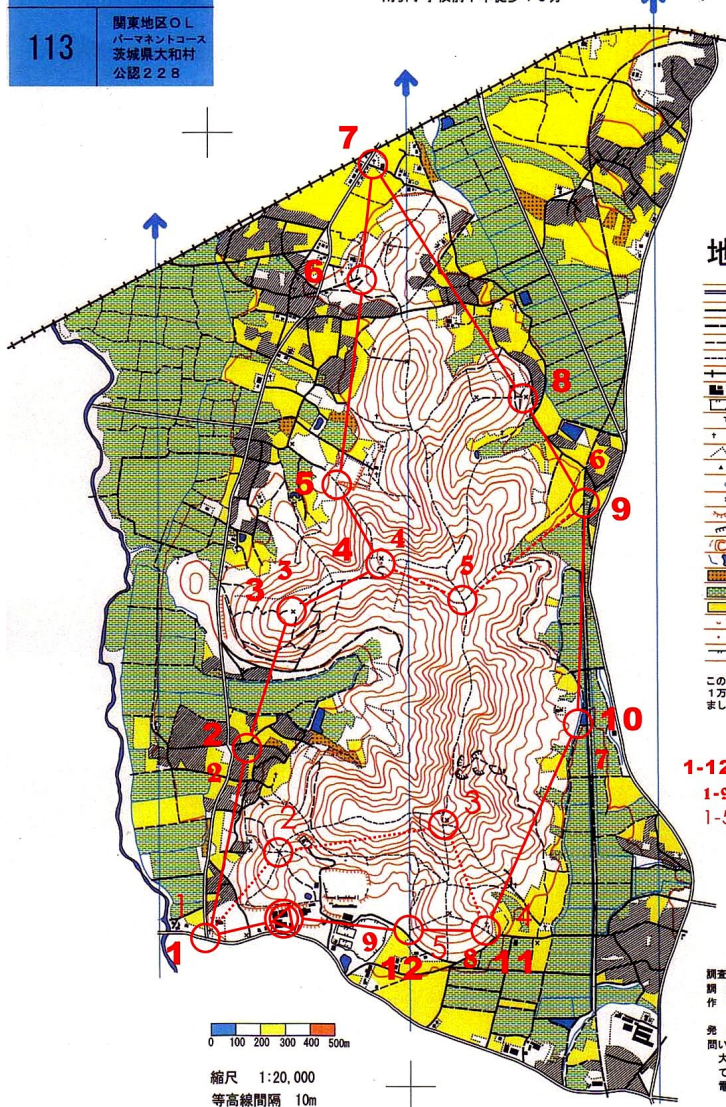
スタート地点は桜川市大和中央公民館。同じ敷地に桜川市役所の本庁舎となった大和庁舎があります。合併した3町村のうちの、唯一の村だった大和村に本庁舎を置くというのもなんとも不思議な気がします…。200mほど東にあった古い役場の建物は、今は消防本部の大和分署に転用されているものの、当時の案内板はすでに撤去されていました。

中央公民館の事務室を訪ね、マップを求めます。ところが、昨年の3月に赴任したという職員は全く要領を得ず、結局現在ここでマップを入手することはできない様子です。現地調達を当てにしていると、むなしく帰る羽目に往々にして陥ることから、今回もあらかじめPC仲間から入手したものを持参して事なきを得ました。早急にマップ調達方法については改善を図り、利用



OLパーマネントコース

交通機関 関東鉄道バス
雨引小学校前下車徒歩15分



地図記号

- 主要道路
- 道路
- 小径
- 小径
- 小径
- 建物・密集地
- 小さな塔
- 墓・墓地
- 植生界
- 石
- 貯水槽
- ほころ
- 土がけ
- 岩がけ
- 等高線
- 川・池・小池
- 果樹園
- 水田
- 畑
- 凹地
- こぶ
- フェンス

この地図は、大和村、岩瀬町の1万分の1の行政図を基礎としました。

1-12 二宮尊徳コース
1-9 まほろばコース
1-5 羽田山コース

調査日 平成11年6月～9月
調査 茨城オリエンテーリング支部
作図 藤内英夫 (00407.0)
(license no. 2526)
発行 茨城県教育委員会
問い合わせ先
大和中央公民館(月曜、祭日休館)にて地図を取扱っています。
電話 0296-58-7117

氏名	住所	クラス	期日	到着時間	スタート時間	所要時間	ペナルティ	コントロール記号記入					
								1	2	3	4	5	6
		No.	年 月 日			時間 分 秒		7	8	9	10	11	12

者にやさしい体制に戻ることを期待したいところです。

PCめぐりは道づれ

今回のコースめぐりはマップを提供してくれた群馬県在住の土井洋平氏が同行してくれています。JR小山駅で待ち合わせ、スタート地点までは車に同乗させてもらってすんなり到着。公共交通機関を使うと、関東鉄道バスが廃

止となったいま、岩瀬駅からタクシーを使うほかありません。

土井氏はこの大和コースをもっと魅力的なものにしたいと計画を練り、コースを管理されている方にも見直しの上承を取り付けているとのこと。羽田山の周囲を一巡りするだけではなく、山そのものを楽しめるコースが近い将来実現する見込みです。

3 コースとなった現在のコースを簡単に解説すると、最も長いのが 8.0km の二宮尊徳コース。旧コースに最も近いルートをたどりつつも、全 12 ポストのうち 7 箇所は新規の位置に設置されています。6.0km のまほろばコースは二宮尊徳コースの第 5～8 ポストをカットし、4～9 へ短絡する間にこのコース単独のポストが 1 箇所設置されています。最も短い 3.0km の羽田山コースはわずか 5 ポストながら、唯一羽田山山頂を巡る山間コースです。単独ポストは 2 箇所。今回は、二宮尊徳コースと羽田山コースを回ります。

快適！ 二宮尊徳コース

まずは二宮尊徳コースから。県道 343 号線を西に向かうとすぐに第 1 ポストを発見します。墓地を背にした交差点脇に小型のポストがちょこんとたたずんでいます。茨城ではお馴染みの光景ながら、このサイズではやはり肩透かしされた気分は否めません。

平坦な道路を北に向かい、第 2 ポストは羽田神社の本堂のうしろ。旧第 2 ポストもここにありましたが、設置位置は若干変更されています。ポストの背後には「公民館建設記念碑」という立派な石碑があるのですが、すぐ横にある平屋の小さな公民館を建てたくらいで石碑が立ってしまうのも、石の町ならではの発想なのでしょう。

ここから OL らしい山道に入ります。まほろば公園と名づけられた羽田山生活環境保全林一帯には遊歩道が整備され、いばらき森林浴の道 100 選にも指定されています。「素晴らしい場所」という意味を持つ古語の「まほろば」。その意味の通りの山道が出迎えてくれます。ドリームストーンと名づけられた巨岩を経て、最初のピークに整備された羽田山広場に到着。小さな祠の脇に第 3 ポストが設置されています。森林浴を堪能しながら尾根に続く道をたどった先にある第 4 ポストのチビッコワールド(山頂広場)共々、筑波山の眺望を楽しみながらお弁当休憩がとれるスポットです。土井氏が以前歩いたときには通行できなかったという第 5 ポストへ下る道は、オリエンティアに向けて整備が施されすっかりきれいになっています。歩いてみると、丸節竹の藪がきれいに切り開かれ、倒木が撤去されて実に快適。荒れ放題のまま放置されていたら、大変な苦勞を強いられたことでしょう。尽力された方々に改めて感謝です。第 5 ポストは山から抜け出た途端、目に飛び込んできます。3 面のうち 2 面は錆のため記号の判読ができない状態なのは残念。

これ以降は羽田山裾の平地をひた歩き。第 6 ポストは旧第 4 ポストの神社の同じ境内に設置されています。かつては巨木の根元にありましたが、その木も落雷によって枯れ木となり、ポストもわずかに移設されました。朱色の本堂が印象的な神社です。

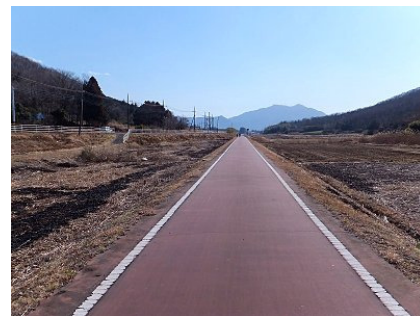
道に戻り、石の切り出された山肌の遠景を眺めながら北に向かうと、JR 水戸線の線路と地図に記載のない北関東自動車道が迫ってきます。踏み切りの手前に小さな神社があり、第 7 ポストが確認できます。ここに、コース名にもなっている二宮尊徳さん縁の石碑が建立されています。「報徳先生碑」という石碑は、19 世紀前半の天保年間に農政家としての尊徳が荒地開拓に力を注いだことを顕彰するもの。薪を背負って本を読む少年時代の金次郎像のイメージの強い尊徳ですが、スタート地点の桜川市役所には、晩年の落ち着いた雰囲気で鎮座する二宮尊徳翁座像が設置されています。

最北端の第 7 ポストから折り返すと、向かう先には加波山の雄姿が迫ってきます。羽田山はこの加波山を含む筑波山地の離れ山という位置づけです。コース後半は筑波山地と羽田山の合間を抜けて行きます。旧第 7 ポストと同じ鳥居の下で第 8 ポストを確認すると、これも錆がまわり、記号が確認できるのは 1 面だけ。写真を収めていると、1 匹の痩せた犬がやってきて、次の第 9 ポストまでお供をしてくれました。

よほど人恋しいのか、嬉しくて仕方がないといった様子で従ってくる白い犬とともに道路を進むと、筑波鉄道廃線跡のサイクリングロードに差し掛かります。かつての踏み切りは交差点となり、サイクリングロード側に「止まれ」の表示。鉄道のあった頃と優先順位が逆転しています。筑波鉄道の跡地は全線に渡って、つくばりんりんロードと名づけられたサイクリングロードに生まれ変わっています。この日もサイクリングを楽しむ人の姿が頻繁に見られ、親しまれていることが分かります。第 9 ポストは旧第 8 ポストとほぼ同じ位置ながら、藪の中にすっぽりと入っているため、すぐに見つけるのは困難です。諦めず探しましょう。

真正面に筑波山を見据えてりんりんロードを南に向かい、池の端にある第 10 ポストを確認すると、残念ながら三面錆に覆われて記号の判読ができません。修復が急務です。

至近距離にある 11、12 ポストは羽田山南の裾野で楽々発見。約 3 時間で二宮尊徳コースを終了します。



筑波鉄道廃線跡のつくばりんりんロード



25 年前 筑波鉄道がのんびり走る光景

ガッツ！ 羽田山コース

軽い休憩をとったのち、引き続き羽田山コースを開始。土井氏から山道は倒木でとても大変だと事前情報を得ていたの、覚悟のスタートです。わずか 5 ポストの小コースですが、その洗礼はコース後半に待ち構えています。重複の第 1 ポストから、毎年開催されている大会にも使用されている歩きやすい山道を登ると分岐で第 2 ポストを発見。ここは旧第 1 ポストと同じ地点です。

この先の小道の十字路を越えると荒れ始めるとのことでしたが、尾根を東西に通じるルートは電力会社によって整備されたようで、何の問題もなく歩行ができる状態に回復しています。これには土井氏も驚きの様子。難なく羽田山山頂の第 3 ポストに到達し、楽なコースだと思い始めた途端、難関が待ち構えています。

ここから下るルートがありません。真南に向かう小径を選択しましたが、激しい倒木に行く手を阻まれ難渋。周囲の林には松くい虫に冒され白木と化した樹木が痛々しい姿を曝しています。土井氏曰く「墓標のよう」。かつての道の痕跡をたどりながら下り、やっとの思いで脱出。尊徳コースの 11、12 ポストを第 4、5 ポストとしてチェックして 1 時間余りで終了です。

地図の取り扱いやポスト状態など課題を抱えていますが、再生に向けた動きを進め、安心して利用できる状態を早く取り戻したいコースです。乞うご期待！

(2012 年 2 月 12 日 踏破)

(大高竜亮)